

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



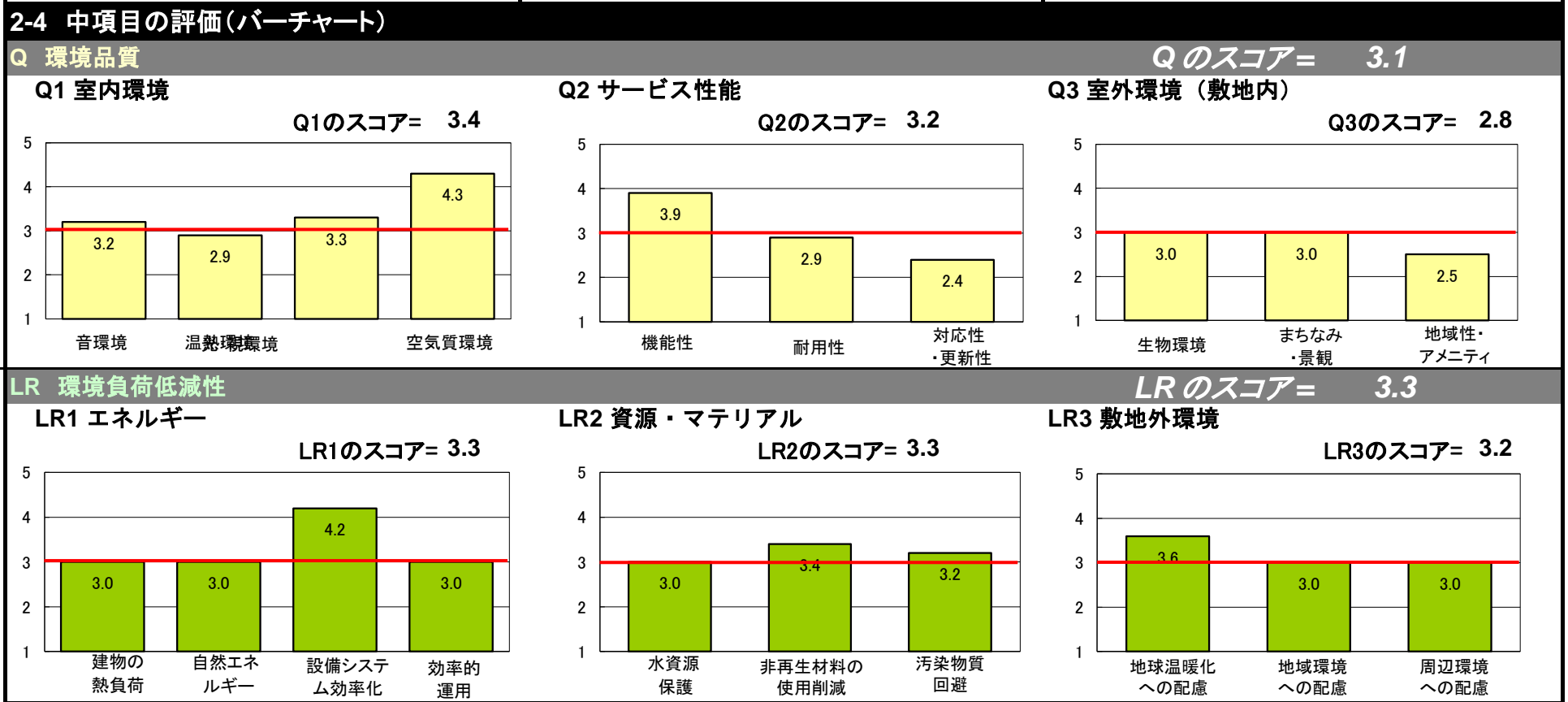
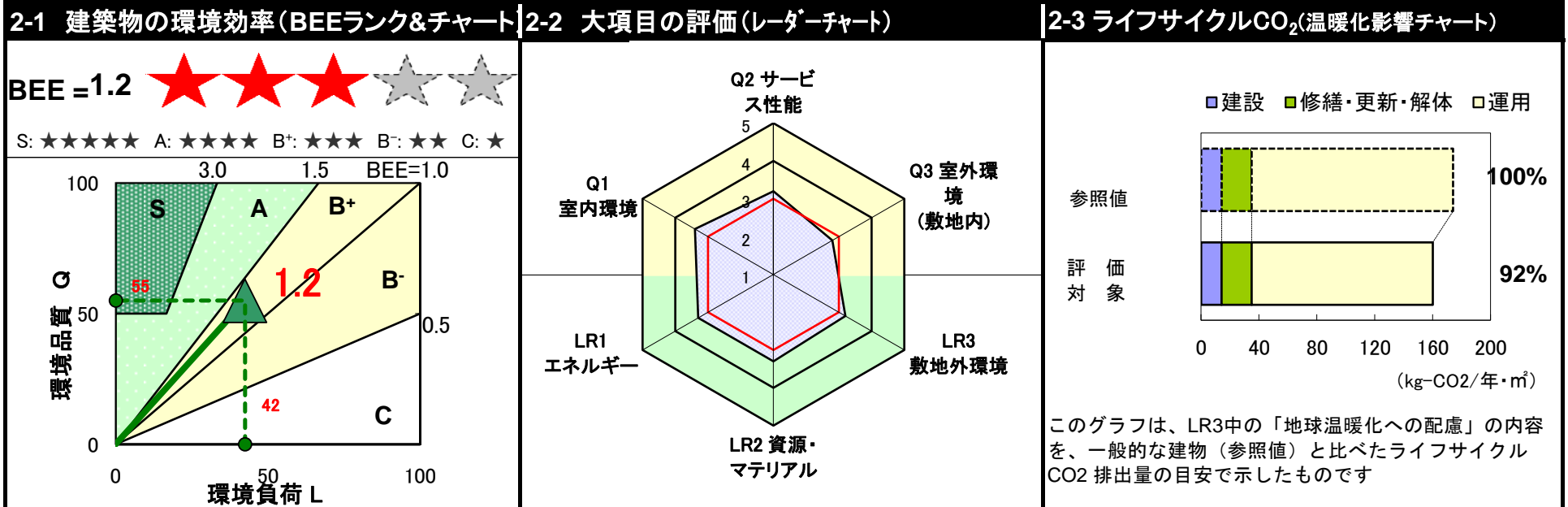
■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

1. 建物概要					
建物名称	(仮称)五十嵐サービス付高齢者住				
建設地	西区 五十嵐一の町7306-5 外				
用途地域	市街化調整区域 第				
建物用途	有料老人ホーム				
竣工年	2014年3月 予定				
敷地面積	2,066.55 m ²				
建築面積	1,111.09 m ²				
延床面積	2,196.92 m ²				
階数	地上2F				
構造	W造				
評価の段階	実施設計段階評価				
評価の実施日	2013年9月12日				
2. CASBEE新潟の評価結果					
		B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{55}{42} = 1.2$		
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★					
3. 新潟市の重点項目の評価					
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	平均スコア 3.6		バリアフリー	Q2.1.1.3	3.0
			維持管理	Q2.1.3	4.5
			更新性	Q2.3.3	3.4
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	平均スコア 3.0		耐震・免震	Q2.2.1	3.0
			信頼性	Q2.2.4	3.0
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	平均スコア 3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 3.0		建物の熱負荷抑制	LR1.1	3.0
			自然エネルギー利用	LR1.2	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 3.7		節水	LR2.1.1	3.0
			リサイクル材の使用	LR2.2.4	4.0
			再利用可能性向上	LR2.2.6	4.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	平均スコア 3.0		生物環境の保全・創出	Q3.1	3.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	平均スコア 2.5		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	2.0
4. 新潟市の重点項目の配慮事項					
長寿命化の取組については、内外装材を維持管理が容易に行える材料を選定した。資源循環の取組は、構造躯体と仕上材が容易に分別可能な計画とした。水と緑を生かす取組は、敷地内の空地を可能な限り確保すると共に、植栽を施すことで通風や地表面温度の上昇を抑制できるように努めた。					

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

CASBEE®新潟 | 評価結果内訳 |

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)



2-5 設計上の配慮事項

<p>総合</p> <p>計画建築物は、周囲を畑等に囲まれた市街化調整区域の一角に設計したサービス付き高齢者住宅である。周辺は閑散としており、そのため「周辺環境との調和・活性化」を総合的なコンセプトとした。これを本施設に要求される機能に付加し、快適な生活環境と街の活性化に繋がる様に計画した。</p>	<p>その他</p> <p>敷地内の掘削土は可能な限り廃棄せず、敷地内で再利用し廃棄物削減を目指した。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>使用建材にはF☆☆☆☆を全面的に使用し、シックハウス対策を徹底した。居住スペース・食堂・居間について、眺望・自然通風及び自然光が得られるように開口部を設け、各諸室を配置した。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>居住エリアの天井高を2.5m確保することで、ゆとりのある快適な空間とした。内外装材は維持管理が容易に行える材料を選定し、建物の長寿命化に配慮した。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>敷地内の空地を可能な限り確保することで通風を確保すると共に、積極的に緑化するすることで、地表面温度の上昇を抑制するように計画した。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>照明設備を可能な限りLED照明器具とすることで、照明エネルギーの削減を図った。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>汚染物質含有材料の使用を回避するため、ハロン消火剤を一切使用しない計画とした。また、リサイクル資材の再利用として再生骨材を路盤材に利用すると共に、構造材において集成材を積極的に利用した。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>敷地外への熱的な影響を低減する対策として、外部アスファルト舗装・通路等は透水性の高い舗装材を採用した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される